



# 平成 17年 3月期 第 3四半期財務・業績の概況 (連結)

平成 17年 1月31日

上場会社名 東洋製罐株式会社

(コード番号: 5901 東証・大証各第1部)

(URL <http://www.toyo-seikan.co.jp>)

代表者 役職名 取締役社長

氏名 三木 啓史

問合せ先責任者 役職名 総務部長

氏名 山 縣 宗 夫

TEL (03) 3508 - 2113

## 1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 無

最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 無

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 有

(内容) 連結会社 新規 1社 (日本ナショナル製罐(株))

## 2 平成17年 3月期第 3四半期財務・業績の概況 (平成 16年 4月 1日 ~ 平成 16年 12月31日)

### (1)経営成績 (連結) の進捗状況

(注)本表及び添付資料は百万円未満を切り捨てて表示しています。

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
平成17年 3月期第 3四半期	535,919	4.4	24,638	8.0	25,757	13.9
平成16年 3月期第 3四半期	513,180	-	22,822	-	22,617	-
(参考) 16年 3月期	666,272		21,692		20,196	

	第 3四半期 (当期) 純利益		1株当たり 第 3四半期 (当期) 純利益		潜在株式調整後1株当たり 第 3四半期 (当期) 純利益	
	百万円	%	円 銭		円 銭	
平成17年 3月期第 3四半期	17,332	26.7	81.51		-	
平成16年 3月期第 3四半期	13,681	-	64.10		-	
(参考) 16年 3月期	11,886		53.86		-	

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しています。

四半期決算の開示は前第 1四半期からの開示となるため、平成16年3月期第 3四半期の対前年第 3四半期増減率については記載を省略しています。

### (2)財政状態 (連結) の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり 株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
平成17年 3月期第 3四半期	925,096	595,129	64.3	2,818.74
平成16年 3月期第 3四半期	897,664	576,815	64.3	2,702.67
(参考) 16年 3月期	909,212	582,695	64.1	2,728.55

## 3.平成 17年 3月期の連結業績予想 (平成 16年 4月 1日 ~ 平成 17年 3月 31日)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	700,000	18,500	12,500

(参考) 1株当たり予想当期純利益 58円 78銭

(注)上記の予想につきましては、本資料の発表日現在のデータにより経営者が現状で判断する一定の前提及び仮定に基づいております。実際の業績は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

参考1. 平成17年3月期第3四半期財務業績の概況(個別)(平成16年4月1日～平成16年12月31日)

(1) 経営成績の進捗状況

(注) 本表及び添付資料は百万円未満を切り捨てて表示しています。

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
平成17年3月期第3四半期	286,305	1.6	8,741	26.8	11,473	15.5
平成16年3月期第3四半期	281,785	-	11,947	-	13,584	-
(参考)16年3月期	362,237		8,966		10,602	

	第3四半期(当期)純利益		1株当たり 第3四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり 第3四半期(当期)純利益	
	百万円	%	円	銭	円	銭
平成17年3月期第3四半期	11,228	14.0	52.75		-	
平成16年3月期第3四半期	9,849	-	46.10		-	
(参考)16年3月期	7,668		35.47		-	

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しています。

四半期決算の開示は前第1四半期からの開示となるため、平成16年3月期第3四半期の対前年第3四半期増減率については記載を省略しています。

(2) 財政状態の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり 株主資本	
	百万円	百万円	%	円	銭
平成17年3月期第3四半期	540,105	414,111	76.7	1,959.55	
平成16年3月期第3四半期	525,222	402,957	76.7	1,886.32	
(参考)16年3月期	538,636	407,590	75.7	1,907.69	

参考2. 平成17年3月期の個別業績予想(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通期	367,000	6,500	8,500

(参考) 1株当たり予想当期純利益 39円94銭

(注) 上記の予想につきましては、本資料の発表日現在のデータにより経営者が現状で判断する一定の前提及び仮定に基づいております。実際の業績は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

## 4 . 平成 1 7 年 3 月 期 第 3 四 半 期 連 結 業 績 の 概 況

当第3四半期(平成16年4月1日から平成16年12月31日まで)におきまして、当社グループは業績の回復を図るべく、生産・販売・研究開発の各分野で業務改革に取り組み、全力を挙げて努力しました結果、売上高は5,359億19百万円(前年同期比4.4%増)、経常利益は257億57百万円(前年同期比13.9%増)、当第3四半期純利益は173億32百万円(前年同期比26.7%増)となりました。

各セグメント別の営業の状況は以下のとおりです。

### 【包装容器関連事業】

売上高は4,522億56百万円(前年同期比2.4%増)となり、営業利益は196億15百万円(前年同期比3.7%増)となりました。

#### 缶詰用空缶・その他金属製品の製造販売

飲料用空缶では、清涼飲料向けは猛暑による追い風がありましたが、缶からペットボトルへの転換が引き続き進んだことにより売上が減少いたしました。中でもリシールできる容器が好まれる炭酸飲料・健康飲料・お茶類向けは売上が減少いたしました。なお、スチールタルクにリシール機能を付与した容器「TEC」は多くのお得意先からご好評をいただいております。コーヒー向けを中心に大きく売上を伸ばしております。今後とも「TEC」の拡販に努力してまいります。一方、アルコール飲料向けは、チューハイや「第三のビール」と呼ばれるビール風アルコール飲料へ需要が移行したことにより発泡酒向けが低迷しましたが、ビール・チューハイ向けなどが猛暑の影響を受けて伸長しました。また、タルクの技術を応用したアルミ缶「aTULC」の販売も順調に推移しており、売上が増加いたしました。飲料用空缶全体の売上高としては清涼飲料向けの減少が影響して前年同期を下回りました。

メタル容器では、栄養補助食品(サプリメント缶)・香辛料・ペットフード向けで新規受注による売上の伸長がありましたが、食用油・水羊羹向けがプラスチック製品へ移行したことや、水産缶詰・果実缶詰・乾電池向けなどが減少したことから、売上高は前年同期を下回りました。

#### プラスチック製品の製造販売

飲料用ペットボトルでは、500mlを超える大容量ボトルについては、夏場の猛暑の影響によりミネラルウォーター・健康飲料・お茶類向けなどが大幅に伸長したほか、秋口に入ってから野菜系飲料向けが順調に推移したこともあり、売上が大幅に増加いたしました。また、500ml以下の小容量ボトルについても、暖冬の影響を受け加温販売製品が低迷しましたものの、新製品が人気となったお茶類向けが順調に推移したことなどにより売上が増加し、飲料用ペットボトル全体の売上高は前年同期を大きく上回りました。

プラスチックボトルでは、マヨネーズ向けが堅調であったことに加え、医療向け検査容器で売上の増加がありましたが、食用油向けが減少し、洗剤向けやシャンプー・リンスなどの髪用品向けも低迷したため、売上高は前年同期を下回りました。

プラスチックフィルムでは、ヨーグルト用蓋材・蔬菜食品・ベビーフード向けの減少がありましたが、洗濯用洗剤・流動食向けの順調な販売に加え、減少傾向にあったカレー向けの回復や猛暑の効果による健康飲料向けの伸長により、売上高は前年同期を上回りました。

プラスチックキャップでは、お茶類・ミネラルウォーター向けなどが大幅に伸長し、売上高は前年同期を上回りました。

#### ガラス製品の製造販売

びん製品では、需要の減少傾向が続く中で、焼酎・清酒向けが増加しましたが、医薬系ドリンク・食料向けが減少し、売上高は前年同期を下回りました。

ハウスウエア製品では、低価格の輸入品の増加などの影響により、売上高は前年同期を下回りました。

## 紙製品の製造販売

紙コップ製品では、飲料コップが減少しましたが、冷菓コップやテイクアウト弁当向けなどの一般容器が増加し売上高は前年同期並となりました。

印刷紙器製品では、加工食品向けの一般紙器製品が増加しましたが、ビール向けなどのジャケットパック製品・医薬系ドリンク向けなどのEフルート等美粧製品・マイクロフルート製品がそれぞれ減少し、売上高は前年同期を下回りました。

段ボール製品では、ビール・発泡酒向けなどのラップ・アラウンド製品が減少しましたが、加工食品向けの一般製品やシートが伸長し売上高は前年同期を上回りました。

## 【鋼板関連事業】

売上高は550億79百万円（前年同期比23.8%増）となり、営業利益は29億52百万円（前年同期比62.0%増）となりました。

シルバートップ（電気亜鉛メッキ鋼板）は、電気・電子機器、自動車、ベアリング向けが増加し、事務用機器向けも堅調に推移したため、売上高は前年同期を大きく上回りました。

ニッケルトップ（ニッケルメッキ鋼板）は、電気・電子機器、自動車、電池向けともに好調を維持したため、売上高は前年同期を大きく上回りました。

ビニトップ（高級化粧鋼板）は、建築材料向けのユニットバス用は伸び悩みましたが、電気機器向けの冷蔵庫用が増加したため、全体として売上高は前年同期をやや上回りました。

薄板類は、電子機器向けの特種薄板が大幅に増加し、電池、自動車向けおよび梱包用帯鋼も堅調に推移したため、売上高は前年同期を大きく上回りました。

その他の品種は、住宅設備は前年同期並でしたが建材が大幅に減少したため、全体として売上高は前年同期を下回りました。

## 【その他事業】

塗薬・肥料・顔料・ゲルコートおよび硬質合金・電子機器部品・機械器具などの製造販売、石油製品などの販売、損害保険代理業および不動産管理につきましては、売上高は285億82百万円（前年同期比5.1%増）となり、営業利益は19億90百万円（前年同期比0.9%増）となりました。

なお、容器の主要材料であるスチール・アルミニウム・プラスチック材料およびその他材料の購入価格が上昇し、また、資材メーカーからさらなる値上げの要請を受けております。当社グループは材料購入価格の高騰を受け、お得意先と協議の上、製品価格の改定を進めさせていただいております。

## 5.平成17年3月期の業績予想

### 【連結】

原材料の値上げの影響などにより利益率の低下が見込まれるため、平成16年11月12日に公表した業績予想を修正しております。

### 【個別】

第4四半期（1月～3月）の販売数量が低調に推移する見込みであることや原材料の値上げの影響などにより、平成16年11月12日に公表した業績予想を修正しております。

## 6. 連結財務諸表等

### (1) 第3四半期連結貸借対照表

(単位 百万円)

区 分	当第3四半期末 平成16年12月31日	前第3四半期末 平成15年12月31日	前連結会計年度 平成16年3月31日
(資産の部)			
流動資産	463,118	463,074	454,454
現金及び預金	128,264	156,616	165,643
受取手形及び売掛金	225,364	216,984	190,429
有価証券	5,001	40	5,002
棚卸資産	84,255	74,917	77,702
繰延税金資産	9,457	8,393	9,314
その他	13,661	8,654	9,030
貸倒引当金	2,886	2,532	2,667
固定資産	461,977	434,590	454,758
有形固定資産	302,685	301,475	298,823
建物及び構築物	108,233	108,024	108,088
機械装置及び運搬具	106,804	110,440	112,714
土地	61,964	58,741	58,740
その他	25,683	24,268	19,279
無形固定資産	2,570	2,163	2,544
投資その他の資産	156,721	130,951	153,390
投資有価証券	122,734	91,529	118,363
繰延税金資産	25,602	31,069	26,683
その他	10,287	10,878	10,305
貸倒引当金	1,902	2,525	1,962
資産合計	925,096	897,664	909,212

区 分	当第3四半期末 平成16年12月31日	前第3四半期末 平成15年12月31日	前連結会計年度 平成16年3月31日
( 負債の部 )			
流動負債	155,276	137,779	146,992
支払手形及び買掛金	82,038	69,161	70,655
短期借入金	14,526	16,344	15,619
未払法人税等	5,444	3,154	5,122
その他	53,267	49,118	55,595
固定負債	131,281	140,257	137,160
社 債	8,000	8,000	8,000
長期借入金	10,885	15,634	14,011
繰延税金負債	3,147	1,881	2,837
退職給付引当金	98,654	105,622	102,279
特別修繕引当金	6,813	6,145	6,582
連結調整勘定	1,818	936	1,309
その他	1,962	2,037	2,140
負債合計	286,558	278,036	284,152
( 少数株主持分 )			
少数株主持分	43,408	42,812	42,364
( 資本の部 )			
資 本 金	11,094	11,094	11,094
利益剰余金	552,284	539,890	537,722
その他有価証券評価差額金	40,374	30,482	38,589
為替換算調整勘定	22	0	38
自己株式	8,601	4,651	4,672
資本合計	595,129	576,815	582,695
負債、少数株主持分 及び資本合計	925,096	897,664	909,212

## (2) 第3四半期連結損益計算書

(単位 百万円)

区 分	当第3四半期 自平成16年4月1日 至平成16年12月31日	前第3四半期 自平成15年4月1日 至平成15年12月31日	増 減	前連結会計年度 自平成15年4月1日 至平成16年3月31日
売 上 高	535,919	513,180	22,739	666,272
売 上 原 価	446,790	429,030	17,760	563,775
売 上 総 利 益	89,128	84,150	4,978	102,496
販売費及び一般管理費	64,490	61,327	3,162	80,803
営 業 利 益	24,638	22,822	1,815	21,692
営 業 外 収 益	6,144	4,695	1,448	6,612
受 取 利 息	246	206	40	276
受 取 配 当 金	995	806	189	1,022
賃 貸 収 入	1,425	1,153	272	1,564
連結調整勘定償却額	529	304	225	395
そ の 他	2,946	2,225	721	3,354
営 業 外 費 用	5,025	4,900	124	8,109
支 払 利 息	403	493	89	722
賃貸資産管理費用	1,231	827	404	1,328
固定資産除却損	915	861	53	1,426
そ の 他	2,474	2,718	244	4,631
経 常 利 益	25,757	22,617	3,140	20,196
特 別 利 益	11,628	1,544	10,084	2,602
固定資産売却益	-	1,544	1,544	2,602
移 転 補 償 金	422	-	422	-
厚生年金基金代行返上益	11,206	-	11,206	-
特 別 損 失	8,583	-	8,583	-
固定資産臨時償却費	1,795	-	1,795	-
災 害 損 失	99	-	99	-
災害損失引当金繰入額	16	-	16	-
退職給付制度変更差額	6,671	-	6,671	-
税金等調整前第3四半期純利益	28,802	24,161	4,640	* 22,798
法人税、住民税及び事業税	9,907	9,246	660	11,062
法 人 税 等 調 整 額	-	-	-	1,517
少 数 株 主 利 益	1,562	1,233	329	1,367
第 3 四 半 期 純 利 益	17,332	13,681	3,650	* 11,886

(注) 1. \*はそれぞれ税金等調整前当期純利益・当期純利益となります。

2. 当第3四半期、前第3四半期における税金費用については、簡便法により計算しているため、「法人税、住民税及び事業税」は、法人税等調整額を含めております。
3. 厚生年金基金代行返上益は、当社が有する厚生年金基金の代行部分の将来支給義務免除の認可に伴い、代行部分に係る退職給付債務と将来支給義務免除を反映した退職給付債務との差額等を過去勤務債務として一括償却したものであります。
4. 退職給付制度変更差額は、当社の退職金制度をポイント制退職金制度へ変更したこと及び適格退職年金制度を廃止し、規約型確定給付企業年金制度を導入したことに伴い、移行前の制度の終了と移行後の制度の導入について処理を行ったものであります。

(セグメント情報)

事業の種類別セグメント情報

当第3四半期(自平成16年4月1日 至平成16年12月31日)

(単位 百万円)

	包装容器 関連事業	鋼板関連 事業	その 他 業	計	消去又は 全社	連 結
売 上 高						
(1) 外部顧客に対する売上高	452,256	55,079	28,582	535,919	-	535,919
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	74	25,728	3,340	29,142	29,142	-
計	452,331	80,808	31,922	565,062	29,142	535,919
営 業 費 用	432,715	77,855	29,932	540,504	29,222	511,281
営 業 利 益	19,615	2,952	1,990	24,558	79	24,638

前第3四半期(自平成15年4月1日 至平成15年12月31日)

(単位 百万円)

	包装容器 関連事業	鋼板関連 事業	その 他 業	計	消去又は 全社	連 結
売 上 高						
(1) 外部顧客に対する売上高	441,518	44,473	27,188	513,180	-	513,180
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	219	37,628	4,207	42,055	42,055	-
計	441,738	82,101	31,396	555,235	42,055	513,180
営 業 費 用	422,818	80,279	29,423	532,521	42,163	490,358
営 業 利 益	18,919	1,822	1,972	22,713	108	22,822

前連結会計年度(自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)

(単位 百万円)

	包装容器 関連事業	鋼板関連 事業	その 他 業	計	消去又は 全社	連 結
売 上 高						
(1) 外部顧客に対する売上高	569,866	60,308	36,097	666,272	-	666,272
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	235	45,263	5,648	51,147	51,147	-
計	570,102	105,571	41,746	717,419	51,147	666,272
営 業 費 用	552,693	103,742	39,369	695,806	51,226	644,579
営 業 利 益	17,408	1,828	2,376	21,613	79	21,692

(注)1. 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっている。

2. 各事業の主な製品

- (1) 包装容器関連事業 空缶製品、プラスチック製品、ガラス製品、紙製品等
- (2) 鋼板関連事業 鋼板、鋼板加工製品等
- (3) その他事業 種菜、顔料、電子機器部品、機械器具、石油製品等

3. 当第3四半期、前第3四半期及び前連結会計年度における営業費用は全て、各セグメントに配賦している。